

算数

➔ 6年生 | 「算数のまとめ」

グループ学習による
算数の学習の完成

1. はじめに

6年生の最後の学習である「算数のまとめ」では、6年間の算数の学習内容を定着させる。本稿では私がこの学習で実践している3つのことを紹介する。

2. 実践している3つのこと

①グループ内で教え合う

私は、児童が他の児童に算数の学習内容を教えることで、より深い理解につながると考えている。そこで私は、「算数のまとめ」において、グループで教え合いながら問題に取り組ませるということを実践している。

グループは算数が得意な児童と苦手な児童が一緒になるように組む。すると、自然と教え合いが生まれる。また、他の児童に教えるときのポイントとして、相手の理解度を意識するよう伝え、相手にとって理解しやすい説明方法を選択するよう指導する。それにより、算数が得意な児童は、苦手な児童に、線分図や関係図などを描いて割合の説明をしたり、折り紙を切って図形の説明をしたりするなど工夫して説明する。相手の理解度に合った手段を選んで説明することは、児童にとって力を伸ばすよい機会となる。

②解答を見ずに丸付けをする

グループで問題を解いた後、解答を見ずに児童に答え合わせをさせる。単純に答えが同じというだけでなく、正解となる根拠も話しながら丸付けをしていき、全員がその答えや式、考え方に納得し、確信がもてたときのみ丸を付けるよう指導する。

また児童には、「自分たちだけで解決できない場



▲グループ学習の様子

合は先生を呼びなさい」と事前に伝え、グループのつまずきに合ったヒントを与えるようにする。例えば、「五角形の内角の和は何度か」で意見が分かれていたグループには、「五角形に対角線を引いて三角形に分けてごらん。気づくことはないかな」と声かけを行った。

③テストを実施する

これらのグループ学習を領域ごとに数時間行ったあと、最後の1時間で学習の定着度を確認するテストを行う。その際、「合格点に達しなかったら再テスト」と決めておくことで、児童は「理解する」ことを大切にできるようになる。これにより、教え合うときも、答え合わせをするときも、自然と自分の考えに根拠をもつようになり、深い学びにつながっていく。

3. 終わりに

このようにグループ学習とテストを行い、「教えて班のみんなが合格した」となると児童も達成感がわき、さらに積極的にグループ学習に取り組む。算数の力を高めつつ、卒業前にクラスとしての一体感も高めることができる。